

水俣病かなり治る

鬼木博士、研究結果を発表

軽・中症ほぼ健康人並みに

水俣市立病院付属湯之見病院整形外科医長鬼木泰博医博は長崎市で開かれている第二十八回日本整形外科学会総会第二日目の二日、「水俣病の現況と対策」と題する研究結果を発表した。

それによると「水俣病の軽症、

中等症患者は、試験的に実施した機能回復訓練の結果、全般的に健康人の七〇程程度に機能が回復する可能性が予想される」となっている。

この研究は同医博が昨年一月から十九月間、水俣市立病院に入院

している二十一人の患者を対象にして行なった試験結果に基づくもので、機能回復訓練は水俣病患者については、フレンケル訓練法を基本にした。下肢(し)コネクシ

ョン訓練をはじめ歩幅、歩行、日常生活動作などの訓練を行ない、

胎児性水俣病については脳性マヒ訓練の方法を取った。その結果軽症者と、中等症者は全般的に健康人の七〇程回復の可能性が予想される。また重症者は、徐々に日常生活動作可能の領域に近づく希望

がみられる。

しかし、胎児性水俣病は脳性小児マヒと同じく、長い間根気強い訓練と、指導を続けなければ機能回復の効果がみられない。水俣病は今後水俣リハビリテーションセンターに入院して、徹底的に社会復帰への努力をする必要がある。

試験的訓練の結果からみて、近く同センターに入院を希望している四十三人の患者のうち軽症、中等症の患者二十八人は社会復帰の可能性がある。重症患者十五人は生活反応だけを示すものを除き、家庭復帰だけの可能性を暗示している。